

●竹蛇籠の編み上げが 4m の計画長さに到着

最初の底辺部分の組み方が裏表によって右編み左編みになることをやっと気づきました。どちらで正確に出来上がるのですが、見本にはそのところが明記されていないので、進行していくと矛盾に突き当たってしまうことになって、行き詰まりになるのです。この点が分るとかなりスムーズに進むことができます。しかし竹が固くて強いもの柔らかくて弱いものなどそれぞれに多様なものですから均一に力のかけ方が違ってきます。これで網目が大きくなったり小さくなったりとして、計画通りにならないので、竹をできるだけ均一に揃えておくことがわかりました。技術力が分り、経験を重ねるとそのコツが発揮されてくるのではないのでしょうか。まだまだ奥が深いということがわかりつつあります。27 日(水)事務局会議の後 7 人が集合して最も困難な難しいとされている底辺部の組み立てに特化して時間を使いました。これまで随分と苦労重ねてきたおかげで 4 時 30 分には一人で 3 組目を作り上げられる人も出現して、すっかりマスターできました。この日で 7 個が組みあがり、合計 11 個になりました。これで 30 日と 1 日の製作学習研究会の資料が準備できました。そして約 300 本の資材となる竹の節と割り出しも完成できました。1 本の竹の節は 20 か所があり、300 本ですから少なくとも 6000 回のハンマーの打ち降ろしが必要となるのです。かなりお来いハンマーですから 100 回がワンパターンで息が上がります。根元の部分はしっかり力を入れないと跳ね返ってしまいます。本気が非強い字です。切りと竹割二つの懸念していた準備作業が完了しました。次の関門の打ち底辺部の組み立ては 11 個を汲み上げたので、先は明るくなりました。次の関門は胴巻きの竹を編み上げることです。簡単なようですが、7 m の長い竹を汲み上げるのですから要領が必要となります。複雑なようで簡単ですが、何しろ長くて取り扱いが簡単にいかないのです、つらいところです。この難関を乗り切れば最後の始末です。とにかく皆さんの奮闘でよくここまでこぎつけられました。もうひと頑張りが必要です。頑張りましょう

●いよいよ秋本番となってきました

翌期こととして暑さ寒さも彼岸まで、その通りです、過ごしやすいこの頃です。秋といえば文化祭や展示会がずらりと待ちかまえています。10 月 1 日は城陽市緑化祭りです。11 月は京田辺市市民文化祭そして、そして 12 月は京都府環境フェスタと続きます。そして 10 月下旬には会誌「里山の自然」の発刊となります。それぞれに模擬店や販売などにも取り組むことになります。まさに春から夏にかけて取り組んできたイベント活動紹介、何よりも観察調査行ってきた実績の発表がずらりと並びます。それぞれの催しでポスター展示のネタづくりが大変です。事務局で検討しました。1 竹蛇籠つくりと中聖牛の設置、現物展示 新聞報道による取り組み紹介 呼びかけチラシの活用 大井川での大聖牛設置風景の紹介 竹蛇籠での生き物調査の結果と紹介 2 初めて取り組んだ夜の生き物調査の方向 3 京都府こどもの水辺取り組み紹介 4 木津川生育植物花写真集 5 里山農園のナラ枯れ木の伐採紹介 6 木津川の希少植物の生育調査と維持管理の報告 7 カスミサンショウウオの成体発見 8 7 回連続開催した親子で遊ぼう学ぼう魚とりの活動紹介などの展示を考えることになりました。いずれにしても寄せられ項目は順位甲乙つけがたい活動です。緑化フェスタでは「カスミ…取り組み」と「木津川の希少種調査」を発表予定。ご期待ください

●木津川希少種調査業務の委託について国土交通省から里山の会に連絡が届きました

業務内容は希少種調査(107 か所の生育地の確認)と除草作業(21 か所の生育地 8440 m²)となっています。工期は 10 月初旬から 3 月末です。これまで里山の会は希少植物の生育が豊かな木津川について管理を強く求めてきました。今回この願いにこたえるように調査管理を業務として発注されたのです。里山の会が 20 年間に及ぶ自主的に行ってきた調査観察記録と経験を生かして、精いっぱい保存管理に努めたいと思っています。これまではボランティアとして活動してきたのですが、これが業務として位置付けられた。河川法の改正以後初めての葉中となることは国交省における河川環境行政の大転換で大変重要な意義のある取り組みです。

●10月1日(日)は午前10時から城陽緑化フェスタと9時から竹蛇籠製作学習研究会が並行して開催

城陽フェスタは数年連続して参加し、活動紹介と調査研究観察の発表の場として、そして松かさツリーの提供を行い、数多くのご参加を得てきました。そして何よりも里山の会の「自分で作る綿菓子」の提供を行い、1時間待ちとなるほど絶大な人気商品と指示いただきました。まさに里山の会の底時からを示し講評歓迎を得てきました。今年は前理事長の深田さんを本部役員として大きな役目を受けられました。里山の会は近藤さんをチーフとして14名のスタッフで参加いたします。また竹蛇籠の製作学習研究会では当初は竹の切り出しを予定していましたが、切り出しは120本が準備できましたので、希望者がおられたら行いますが、蛇籠の編み方に取り組むことになります。こちらは播川理事長を責任者にスタッフは7人で取り組むことになります。もちろんこれらの皆さんは前日の9月30日にも蛇籠つくりのスタッフとしてお願いすることになります。よろしくお願いします。

●中聖牛設置の完成日を10月22日(日)予定

この中聖牛の設置は木津川事務所ひいては淀川河川事務所の大きな理解があって、計画実施ができることです。そしてそれを推進する力はNPOやましろ里山の会と京の川の恵みを活かす会が、前回の実績を踏まえて腰を据えたから推進力として力を発揮しているからこそ取り組められているのです。この事業は経費を推計してみますと約400万円を超える大事業になると思われます。これだけの事業を簡単にハイできましたということで済ませてはもったいないと考え、正式な名所は未決定ですが、竣工を祝うとして、里山の会の総力を結集して開催をしようと事務局メンバーに相談いたしました。15年前「水津川花ごよみ」(800冊)の発刊記念祝賀会を100人以上のご参加を得て盛大に開催いたしました。今回はその時以上に対外的にも内容的にもそして社会的にも上回る社会貢献となる事業と言えます。少し困難は考えられますが、木津川河川敷砂浜でささやかですが、披露の集いを考えています。開催となりました降りには全会員さんうち揃ってご出席をお願いいたします。

●生き物調べ(魚・水生昆虫、地形の変化)を調べ

10月8日(日)10時~12時 竹蛇籠の設置場所(木津川左岸15.2km)京田辺市飯岡浜。 昨年は35人のご参加がありました。竹蛇籠を設置してどのような生き物が棲み処にしているのかワクワクする取り組みです。解説指導は京都大学准教授の竹門康弘先生にお願いしています。助手は京都大学院生小林慧人・滋賀県立大学院生・北野大輔・京都学園大学生中栄玲志君などがお手伝いをいたします。魚好きの子どもたち集まってください。なかなか内容が充実した取り組みです。ご参加ください、無料です。午後からは向い側の浜に設置する中聖牛の取組み(竹蛇籠の組立)を行います。

2年前に設置された竹蛇籠。許可を得て木津川の竹やぶから伐採された真竹を編んで籠状にし、中に河川敷の玉石を詰め込む。腐りにくい松の杭で固定

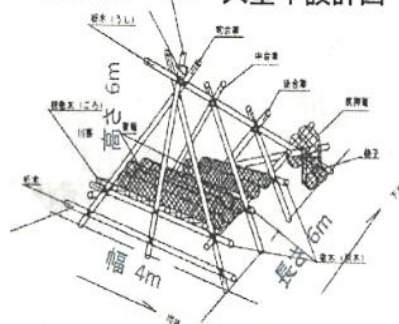


伝統工法

竹蛇籠
大聖牛

で生き物増やそう

木津川版 第2版 大聖牛設計図



木津川版大聖牛の設計図

「木津川の水辺の生き物を増やしたい」一自然保護や河川環境の改善・改良の活動を進めてきた住民らが、護岸保護のための在来工法による「竹蛇籠」や「大聖牛」の設置に取り組んでいます。2年前に「竹蛇籠」をつくった経験を活かして初めて「大聖牛」の製作に挑みます。（平山伸一）

(平山伸一)

環境維持して治水 魚、昆虫の棲みかに



スジシマドジョウ



ヨドゼゼラ

流れの緩やかな環境が減り、イタセンバラなどが姿を消しました。この状況に危機を覚えた市民や研究者が豊かな自然環境を維持しながら治水をした在来工法に着目しました。竹蛇籠は竹を籠状に編み、中に玉石を詰め杭で固定した、岸から迫り出して設置するもの。河川中心部の流速を速めて「瀬」を保全しながら設置部下流の流速を抑え、砂浜を復元、河床低下も抑制。流れの穏やかな環境をつくり出します。玉石の間が小魚や昆虫のすみかとなり、豊かな生態系を回復しました。

大型牛は、三角錐状に丸太を組み、底部に

求め、町水橋、京田辺市井手町）下流の兩岸への設置が認められました。すでに設置されている大井川（静岡県皇田市）を訪れ事前調査設置時には、全国から約1700人が参加。静岡県で技術継承する建設会社と竹間康弘・京都大学准教授の指導を受け、4名の長さのものを18本製作し、6カ所に設置しました。

高知などに取
り組み広がる

後日、魚の増加や、砂浜の形成が確認されました。高知の参加者が四十万川での設置を計画。取り組みが広がっています。

高知などに取
り組み広がる

【講習会】 30日・10月1日、竹蛇龍用竹の切り出し。7日・8日竹蛇龍の製作講習会。8日午前水生動物調査。21日・22日、大聖牛製作・設置講習会。いずれも午前10時〜午後4時、玉水橋下流右岸の広場集合(玉水橋下流左岸、石岸堤防より車両進入可。雨天決行。暴風雨等警報発令時は延長(日)時H.P.に掲載)。昼食、飲み物、軍手持参。参加費無料。他に竹蛇龍製作学習あり。問い合わせ・申し込み・面談 74-4-641483、radw@57@bb.ne.jp、jp@66.03@nifty.com <http://www.yamashi-to.nino-jp.net>

木津川で住民が計画

30日から製作・設置講習会

取り組んでいるのは
NPO法人やいろいろの
山の会、京の川の恵み
を活かす会、淀川管内
河川レンジャー

本津川は山間部から
花こず岩嶺の土壌が流
れ込むため河川敷に砂
浜が広がり、本流には
速い流れの環境に適応
した魚類、支流やよど
みのワンドには流れの
緩い環境を好む種が生
息がきまりました。とこ
ろが、上流でのダム建
設や防災工事の普及で
砂が下流に流れにくく

2年前、製作のため全国から集まった人々



竹蛇籠(上部)設置により形成された入江

今年は大聖牛3基の設置を計画。静岡県と竹門京大准教授の指導を受けて設置する予定。9月から竹蛇籠の製作も始まっていきます。

やましろ里山の会常務理事の山村武正さん(77)は「江戸時代までは地域が結束して川を守ってきた。住民が自

然環境の保全、防災に
より関わっていくきつ
かけとし、各地に広が
る経験にしたい」と話
しています。

【講習会】 30日・10月1日、竹蛇籠用竹の切り出し。7日・8日竹蛇籠の製作講習会(8日午前水生動物調査)。

2日、22日、大聖牛製作
設置講習会。いずれも
午前10時〜午後4時、
玉水橋下流右岸の広場
集合(玉水橋下流16^番
岸堤方より車両進入)

可)。雨天決行。暴風雨
言報發令時は延長(日
時HPに掲載)。昼食、
飲み物、軍手持参。参
費無料。他に竹蛇籠

製作学習あり。問い合わせ・申し込み☎・国0174・64・4183、
fddbw257@yhb.ne.
(やまの里山の会)。

<http://www.yamashi-o.mpo-jp.net>